

森政淳子 (女子栄養大・院)

目的 30～64歳の中年層を対象に、

- ① 子世帯との生活分離の傾向が食事にも示されていることの確認をする。
- ② 性役割の規範意識と実際の行動について明らかにする。
- ③ 上記のそれぞれについて、地域差の有無を確認する。

方法

1996年5～7月、千葉県の衛星都市と山梨県の山村において、留め置き法で質問紙による調査を行った。統計的検定はカイ二乗検定及び母比率の差の検定を行った。

結果

- ① 両地域とも生活分離の傾向が食事に関しても示され、その比率は先行研究より高率であった。さらに、都市部では、山村より食事を含めた生活分離の傾向は大きいことが示された。また、山村では高齢時に子世帯との別居を望むものほど、食事に関しても子世帯との分離の意向を示していた。
- ② 両地域とも食事づくりについては根強い性役割が見られた。しかし家事労働の質・量的内容の違いから、山村の方が性役割の規範が緩やかで可塑的であると思われる。さらに、両地域ともこれらの規範に疑問を示す意見があがった。